

# 第 2 回現地実行委員会学習会 を開催しました

## 《学習テーマ》 エssenシャルワーカーとジェンダー問題

大牟田現地実行委員会は、11月の九州セミナーの本大会開催に向け第2弾企画として8月3日（土）に山崎あづさ弁護士を講師にお招きし、エssenシャルワーカーのジェンダー問題について議論を深めました。



《講師》

女性協同法律事務所

山崎あづさ 弁護士

コロナウイルスのパンデミックが世界を襲ってから数年が経ち、エssenシャルワーカーの重要性と、その中でのジェンダー不平等が改めて注目されています。女性が多く従事するエssenシャルワーカーの多くは、男性と比較して賃金が低いことが多く、長時間労働や不規則なシフト勤務が一般的であり、これが家庭生活や子育てとの両立を難しくしています。特に女性は、家庭内での責任も多く担っているためさらに大きな負担となります。歴史的な性別役割分担や社会的な偏見が、労働市場における女性の地位を低下させる要因ともなっています。2024年6月発表のジェンダーギャップ指数で日本は146カ国中118位と他のOECD加盟国と比較しても下位に位置しています。特に経済参加と政治的分野で大きな課題を抱えています。私たちがこの問題に関心を持ち、公正な待遇を受けられる社会の実現に向けて行動する重要性を改めて感じさせられた講演となりました。

### 指定報告（社会福祉法人 あらぐさ会 保育士 橋本さん）

保育士にとっても新型コロナウイルス感染症の影響は大きなものでした。保育士は子供たちとの密接な接触が避けられないため、感染リスクが高まり保育士自身の健康や安全が懸念されました。そんな中でも利用者に寄り添い時には保護者の負担を減らすため園児の洗濯を保育士で手分けしておこなったり、男の子が女の子の水着を着たいとの訴えに真摯に向き合い奮闘する保育士の事例報告がされました。しかし、保育士は女性の多い職場で賃金が低いのが現状です。賃金の引き上げとともに、労働環境の改善の必要性を感じた報告でした。

## 指定報告（社会医療法人 親仁会 介護福祉士 田上さん）

介護福祉士も同様に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。介護の仕事は体力を必要とする場面が多く、男性はその点で期待されがちです。実際に肉体的負担が大きくなり腰を痛めたため、労災申請したが色々な意見があったとの報告がされました。また、男性の育休についても社会的な偏見が根強く取得しづらいとのことでした。同性介護の難しさや、LGBTQ に対する職場の対応など現場の声が報告がされたこととても印象的でした。



九セミ大牟田 2024 を一緒に作りましょう！  
現地実行委員会へのご参加お待ちしております。



### ◆◆◆参加者からの感想（アンケートより一部抜粋）◆◆◆

- ジェンダー平等という言葉はよく使われているが世界的にみると日本の男女格差は大きいと感じた
- 男女平等と理解しているつもりでも、無意識の偏見があると思った。
- 女性の大変さは実感しているが、女性の中で働く男性の大変さを知るよい機会となった
- 子供の教育と保護者を支える保育士さんにエールを送りたいと思いました

たくさんのアンケートありがとうございました。

主催 第34回人間らしく働くための九州セミナーin大牟田 現地実行委員会  
〈お問い合わせ〉

第34回人間らしく働くための九州セミナーin大牟田 現地実行委員会事務局  
〒837-0924 大牟田市歴木4-65 親仁会本部内  
TEL 0944-53-2711 FAX 0944-53-5800  
Email [t-noguchi@kome-net.or.jp](mailto:t-noguchi@kome-net.or.jp)